

平成24年3月22日に和歌山市議会で可決された「東日本大震災に伴い発生した瓦れきの受け入れに関する決議」に対する和歌山市の考え方を申し上げます。

東日本大震災の被災地で発生した瓦れきの処理が進んでおらず、復旧・復興の妨げになっている状況は、私も充分理解しています。

しかし、和歌山市が一般廃棄物を最終処分している大阪湾広域臨海環境整備センター(フェニックス)への水面埋め立てについては、慎重な議論が必要とされており、現時点では災害がれきの焼却灰の受け入れができる状態ではありません。

本市といたしましては、市議会全会一致の決議を真摯に受け止め、被災地復興支援に取り組むべく、国や県に対しては住民に対する説明責任を果たすことを求めるとともに、和歌山県や関西広域連合の動向に注目しながら、最終処分場や放射能の基準などの諸問題が解決され次第、市民の皆さんの安全・安心を第一に考えて、受け入れが可能かどうかを検討していきたいと考えています。

検討した結果、受け入れ可能となれば国・県とともに、市民の皆さんに丁寧に説明を進めます。

平成24年3月22日

和歌山市長 大橋 建一